

Henkel News Clip ヘンケルニュースクリップ



全国のヘンケル社員の子どもたちと海の環境保全を学ぶ 「サマー サステナビリティクラス2021」オンラインで開催

2021年8月4日、ヘンケルジャパンは社員とその家族に向けたオンラインイベント「サマー サステナビリティクラス2021」を実施しました。

授業では、パッケージに使われるプラス



幼稚園・保育園～中学生の子どもたちを中心とした100名以上が、海の環境保全の大切さを学びました。

チックが、ボイ捨て等によって海に流れ込み、環境を破壊しているという問題提起がありました。そこで、代表取締役社長 浅岡聖二から、接着技術事業部門の事例として、プラスチック製ストローの代替品である紙ストロー普及のカギともいえる水系接着剤と、資源回収の際の分別をより行いやすくするためにも重要な、ペットボトルのラベルに使用するホットメルト型接着剤の技術について説明がありました。さらに、ビューティーケア事業部門 リテールマーケティング部の周 冬晴より、環境負荷軽減のために再生可能な植物由来の資源を利用するなど、同部署の製品パッケージについての取り組みの例も紹介されました。

さかなクン Profile



国立大学法人東京海洋大学名誉博士・客員准教授。豊富な知識と経験に裏付けされたトークを活かして各方面で活躍し、魚についての正しい情報の発信、漁業の将来等をテーマとした講演活動も行う。外務省より「海とさかなの親善大使」に任命。

後半は国立大学法人東京海洋大学名誉博士・客員准教授のさかなクンが登場し、環境汚染による魚や海の生き物たちへの影響を、イラストを描きながら、ときにユーモアを交えて説明しました。そして、きれいな海を守るために、できることから始めることの大切さを呼びかけました。

ヘンケルの国際教育イニシアチブ 「Forscherwelt」が10周年を迎える

楽しい研究をすることで、子どもたちの科学の世界への探究心を育てる——。早期教育を重視するヘンケルによる国際教育イニシアチブ「Forscherwelt」（研究者の世界）が10周年を迎えました。この国際的プログラムは、接着、洗濯、パーソナルケア

といったヘンケルの研究分野を反映すると同時に、サステナビリティ（持続可能性）を探究するもので、小学校向けの授業用ユニットと配布教材が含まれています。2011年4月の開催以来、13カ国で合計約62,000人が参加しました。



子どもたちはプログラムを通じて、研究という仕事のプロセスを学びます。



Forscherweltには13カ国、約62,000人の小学生が参加（日本未開催）。

President Message

社長メッセージ

消費財製品を提供する企業として
海洋汚染という課題に
向き合っていく

ヘンケルジャパン株式会社
代表取締役社長
浅岡 聖二



「サマーサステナビリティクラス2021」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながらみなさんにオフィスまで足を運んでいただくことはできませんでした。しかし、オンライン開催となり、東京、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡のヘンケルジャパン社員およびその家族のみなさん100名以上の方々と一緒に環境保全について考

える機会を得ました。海洋汚染は喫緊の課題であり、当社も消費財製品を提供する企業として課題解決に向けた取り組みを続けています。今、地球規模で起こっている課題・問題に対して自分たちに何ができるのかを考え、これからも製品開発やサステナビリティ活動を通じて実行に移していく所存です。

1920年代から現在に至るまで、ヘンケルは環境に配慮しながら製品を進化させてきました。接着剤部門、ビューティケア部門のサステナブルへの取り組みを紹介します。

～1940年代

人は理想の髪を手に入れるために、あらゆることを試してきました。古代文明では、ハーブや天然油が使われていました。1903年、ハンス・シュワルツコフは世界初の水溶性シャンプーを発表し、これを機にヘアケア製品は、商品の製造方法、効用、さらに環境や社会への影響に関して、進化を続けることになります。1949年には粉末製品に代わり、チューブ入りクリームシャンプーが登場しました。



1903

ヘアケアの先駆者の存在ともいえる、初の水溶性粉末シャンプーである「ブラックスシルエットのシャンプー」が発売。



1922

接着剤の自社生産開始。1年後には、Mala (マラ)とTapa (タパ)のブランドで、ジャガイモベースの接着剤の販売を開始しました。



1933

アルカリ不使用のシャンプーの原型となる、世界初のアルカリ不使用シャンプー「Onalkali」(オナルカリ)が登場しました。



1949

初のチューブ入りクリームシャンプーが発売。

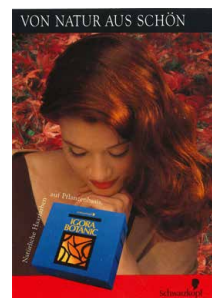
1980～1990年代

1980年代以降には、顕在化した環境問題がより人々の関心を集め、解決への意識が高まるようになります。製品は従来の役割に加えて、環境問題に対するソリューションを提供することも期待されるようになってきました。それに応えるために、ヘンケルの製品もさらに進化を遂げるようになります。



1988

Loctite Purbond (ロックタイトパーボンド) 接着剤で、最新のハイテク木材建築への道を開拓。



1991

植物由来のヘアカラー Igora Botanic (イゴラボタニック) が、シュワルツコフ プロフェッショナル事業部門より発売。



1993

Prittスティックのりが、油分ベースからジャガイモのでんぷんをベースにした処方に進化しました。

～1950年代

1922年に接着剤の生産を開始したヘンケルは、1929年には冷水に溶ける接着剤を発売し、エネルギー消費量と関連する排出物を削減しました。そして、1950年代までにさまざまな用途に向けて、約1,000種類の特殊接着剤のポートフォリオを作成していました。

～1960年代

都市化と冷蔵の普及で、便利な包装食品の市場が拡大。1960年に登場したパッケージ用の Technomelt (テクノメルト) 接着剤で、食品の鮮度と安全性をより長く保つことが可能になりました。



2017

ポリウレタン樹脂を使用することで繊維強化コンポジットのリーフスプリングが誕生、自動車の軽量化が実現し、ヘンケルはラインノバケーション賞を受賞しました。



2019

オーガニック認証を受けた新しい化粧ブランド、N.A.E.の販売開始。イタリアの薬草学を起源としており、スキンケアおよびボディケア製品の原料の97%以上が天然由来で、処方も完全植物由来です。

2000年代～

サステナブルは人々の意識に浸透し、企業活動にも欠かせないものになりました。デジタル化が加速するのに対応して、接着剤を開発するヘンケルの科学者たちは、コンピュータやスマートガジェットのために役立つ革新的な技術をいち早く開発しました。例えば、部品やバッテリーから熱を逃がす特殊な接着剤はデバイスを低温に保つことができます。こうした接着剤によって、より効率的かつ持続可能な形で高性能電気自動車を開発・生産することも可能になり、また組み立て工程での接着剤の使用が増えることで、車体の軽量化にも貢献しています。そして、植物由来の接着剤は、産業界全体のサステナビリティを後押ししています。



2018

ボディ＆ヘアケアブランド、Nature Box (ネイチャーボックス) を立ち上げ。製品で使用するオイルは完全植物由来で、シリコン、人工着色料、硫酸塩、パラベン不使用。また2020年以降のパッケージは、98%のソーシャルプラスチックで作られています。



2021

電子機器組立用の、世界初となるバイオベース・ポリウレタン・ホットメルト接着剤を開発。Loctiteブランドの新製品(2021年9月時点日本未発売)は、60%が再生可能な植物由来の原料で製造されています。

Column



Plastic Bank (プラスチックバンク) とのパートナーシップで、プラスチック廃棄物と貧困問題の解決に寄与

サステナビリティ(環境への配慮)はヘンケルの伝統の一部であり、戦略的枠組みの主要要素の一つです。ヘンケルは2017年、プラスチックバンクとのパートナーシップを結び、世界でもっとも貧しい国の一つであるハイチにプラスチック収集センターを開設しました。その後もフィリピン、インドネシ

アでのプロジェクトをサポート、今年3月にはエジプトにプラスチック回収センターを開設しました。パートナーシップの締結以来、170万キログラム以上のプラスチック廃棄物を回収し、8,600万本以上のプラスチックボトルが海に流入するのを防ぐことができました。